トヨタ車体
TOYOTA AUTO BODY

CSR Report 2011

目次

■会社プロフィール 2
■トップメッセージ 5
■企業理念 7
■トピックス 11

■環境側面
環境方針・環境プラン 14
エネルギー・温暖化防止 15
資源循環 17
環境負荷物質 18
環境マネジメント 19
環境トピックス 21

■社会側面
お客様とのかかわり 22
取引先とのかかわり 27
地域とのかかわり 29
社員とのかかわり 32

■主な経営指標 38

編集方針

1999 年「環境報告書」の初版を発行し「環境・社会報告書」を経て 2010 年に「CSR レポート」と改題し本版で 13 回目の発行となります。

特に本年は、テーマごとに当社の「めざす姿」や「思い」を語り、CSR 活動の特徴ある取り組みをわかりやすくお伝えできるように構成しました。

更に深く知りたい方には本文中から詳細データを閲覧できるようにしました。

最終頁に電子アンケートを記載していますので皆様の忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

本レポートの対象範囲と期間

対象範囲　トヨタ車体と連結対象会社

対象期間　2010 年 4 月～ 2011 年 3 月を原則としますが、進捗のあった項目で活動の理解を深めると思われるものは期間を超えて報告しています。

■会社プロフィール

会社概要

社　　名	トヨタ車体株式会社
本社所在地	愛知県刈谷市一里山町金山 100 番地
設　　立	1945 年 8 月 31 日
代 表 者	取締役社長　網岡　卓二
資 本 金	103 億 7 千 1 百万円
売 上 高	1 兆 4,626 億円 (2010 年度実績・連結)
従業員数	16,872 名 (2011 年 3 月末現在・連結)
事 業 所	本社／富士松工場 いなべ工場、吉原工場、刈谷工場、 寿新規開発センター

関連情報
click 会社概要
click 製品ラインナップ
click 開発から生産までの流れ

主要製品

ミニバン

アルファード

ヴェルファイア

エスティマ

ヴォクシー

ノア

商用車・コミューター

ハイエース

コースター

SUV

ランドクルーザー 200

ランドクルーザー 70
ピックアップ (輸出モデル)

セダン

プリウス

特装車

冷凍車

福祉車両

車いす仕様車

サイドリフト
アップシート車

フレンドマチック
取付用専用車
(ウェルキャリー付)

電気自動車

電気自動車 コムス

■会社プロフィール

主な事業所

生産拠点

本社・富士松工場
愛知県刈谷市一里山町金山 100 番地

主要製品
エスティマ、エスティマ HV
ヴォクシー、ノア、プリウス

刈谷工場
愛知県刈谷市昭和町 2 丁目 1 番地

主要製品
福祉車両「ウェルキャブ」

いなべ工場
三重県いなべ市員弁町市之原 10 番地

主要製品
アルファード、ヴェルファイア
ハイエース、レジアスエース
欧州ハイエース（輸出専用モデル）

吉原工場
愛知県豊田市吉原町上藤池 25 番地

主要製品
ランドクルーザー 200
レクサス LX570（輸出専用モデル）
ランドクルーザー 70（輸出専用モデル）
コースター

開発拠点

開発センター
本社・富士松工場内

生産技術センター
本社・富士松工場内

寿 新規開発センター
愛知県豊田市寿町 1 丁目 36 番地の 1

国内・海外　子会社

国内 子会社 / 生産会社

岐阜車体工業 (株)

(株) 東海特装車

トヨタ車体精工 (株)

エース産業 (株)

東海部品工業 (株)

■会社プロフィール

国内 子会社 / その他

ＴＡＢＭＥＣ（株）

（株）トヨタ車体研究所

（株）エル・エス・コーポレーション

（株）イナテック

ライフクリエイション（株）

（株）ライフサポート

海外 子会社 / 生産会社

スギティー
クリエーティブス（株）
（インドネシア）

春翔欣業（株）

（中華民国（台湾））

タイオートコンバージョン（株）

（タイ）

トヨタオートボデートーカイ
エクストゥルージョン（株）

（インドネシア）

トヨタオートボデー
マレーシア（株）

（マレーシア）

オートパーツ
マニュファクチャリング
ミシシッピ（株）

（アメリカ）

関連情報	
	click 国内子会社
	click 海外子会社

■トップメッセージ

お客様の期待にお応えするクルマづくりを通じて社会に貢献します

トヨタ車体株式会社
取締役社長
網岡 卓二

世界の自動車市場は、2008 年の米国金融危機に端を発した景気後退により需要が大幅に落ち込みましたが、中国等の新興国市場拡大により 2010 年には過去最高の 7,500 万台超えとなりました。この需要回復の中で、新興国が販売構成比で 5 割を占め、かつてないほど重みを増しています。さらに、環境問題への意識の高まりを背景に、原油価格高騰や各国税制恩典等もあり、環境対応車の開発競争は熾烈なものとなっています。当社としましても、新興国を中心とする「海外事業拡大」と「環境技術開発」がこれからの重要な経営課題であると認識しております。

2020 年ビジョンに、「商用車・ミニバン・SUV をコアとして、特装・福祉事業を加えた完成車両メーカーを目指す」ことを掲げております。トヨタグループの中で当社が開発・生産を主に担当するこれらの商品領域は、国内では強みを発揮しシェアを確保できていますが、海外ではまだまだ手がつけきれていない、将来的に市場の成長が期待できる地域が多く存在しています。

当社自らが、中国やアセアン、アフリカ、中南米など新興諸国の市場を調査しお客様ニーズを把握して迅速に商品企画し提案できる体制づくりを進めており、2011 年は、この活動をさらに強化していきます。併せて、社員に対してグローバル意識の高揚をはかるために「もっと世界を知ろうよ」と常に語りかけていきたいと考えております。

そして、お客様に良品を廉価でご提供するためには、生産の現地化も進めていかなければなりません。当社初の北米拠点がこの秋に生産を開始しますが、市場が成長する海外での事業基盤をトヨタ自動車と連携し強化してまいります。

また、環境技術をより一層磨いていかなければ、厳しいグローバル競争の中で生き残ることはできず、材料から製品の造り方に至るすべてのプロセスで技術開発や改善を進めていく必要があります。欧州等の中長期環境規制強化に対応するための画期的な車両軽量化の推進、カーボンニュートラルを目指した植物材料や超小型電気自動車の次世代モデルの研究開発にも取り組むとともに、生産時の省エネや CO_2 低減を進め、地域と共生し自然と調和する工場づくりにも注力してまいります。

2011 年 3 月に発生した東日本大震災により甚大な被害がもたらされました。被災地の皆様の安全と一日も早い復興を心から願い、トヨタ車体グループとしても、できる限りの支援を行なってまいります。この震災で強く感じたことは、日本人の助け合いできる力強さであります。
未曾有の困難を乗り越えて、必ず日本は復興を成し遂げることができると確信しています。
企業は社会の公器と言われますが、社会に役立ってこそ存在するものであり、当社も高齢者、身体の不自由な方々も含め広く世界のお客様が期待されるクルマを今後もご提供し、社会から必要とされる企業であり続けたいと考えております。

当社が取り組む CSR 活動を一人でも多くの方にご理解いただけるよう、この CSR レポートに取りまとめました。皆様からの忌憚の無いご意見をお待ちしております。

2011 年 6 月

当社が開発・生産しているエスティマの福祉車

■企業理念

社是

（1963年制定）

社　是

わが社は 国際的視野にたち
研究と創造とにはげみ よい製品に
よって社会に貢献し 社業のたゆみない
進展をめざす

開発：つねに時流に先んじ アイデア
と時間を尊重する
和親：誠実と信頼により 明朗と
協調とをはかる
感謝：反省を進取の糧(かて)とし
勤労のよろこびに生きる

基本理念

（1995年制定、2004年改定）

1. 環境との調和とオープンでフェアな
企業行動を基本とし、国際社会から信頼され、
豊かな社会づくりに貢献する企業をめざす。

2. お客様を第一に考え、研究と創造を通して、
生活空間を豊かにする「よい商品」を提供する。

3. 人と組織を活性化し、
創造力と活力ある企業風土をつくり、
企業の繁栄と社員の幸せを追求する。

4. 取引先との相互信頼と開かれた取引関係を
基本に、互いに経営体質の強化に努め、
長期安定的な成長と共存共栄を実現する。

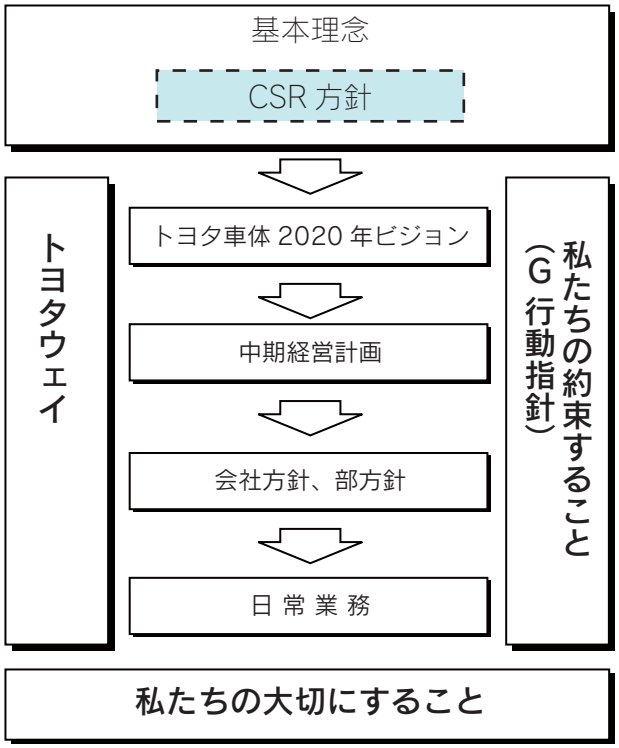
CSR 方針「社会・地球の持続可能な発展への貢献」

2009 年度よりトヨタ自動車㈱と CSR 方針を共有。トヨタ車体は、連結子会社とこれを共有・行動し、取引先に対しても CSR 方針の趣旨の支持とそれに基づく行動を期待しています。

CSR 方針

click 「CSR 方針」

CSR 方針との位置付け



コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

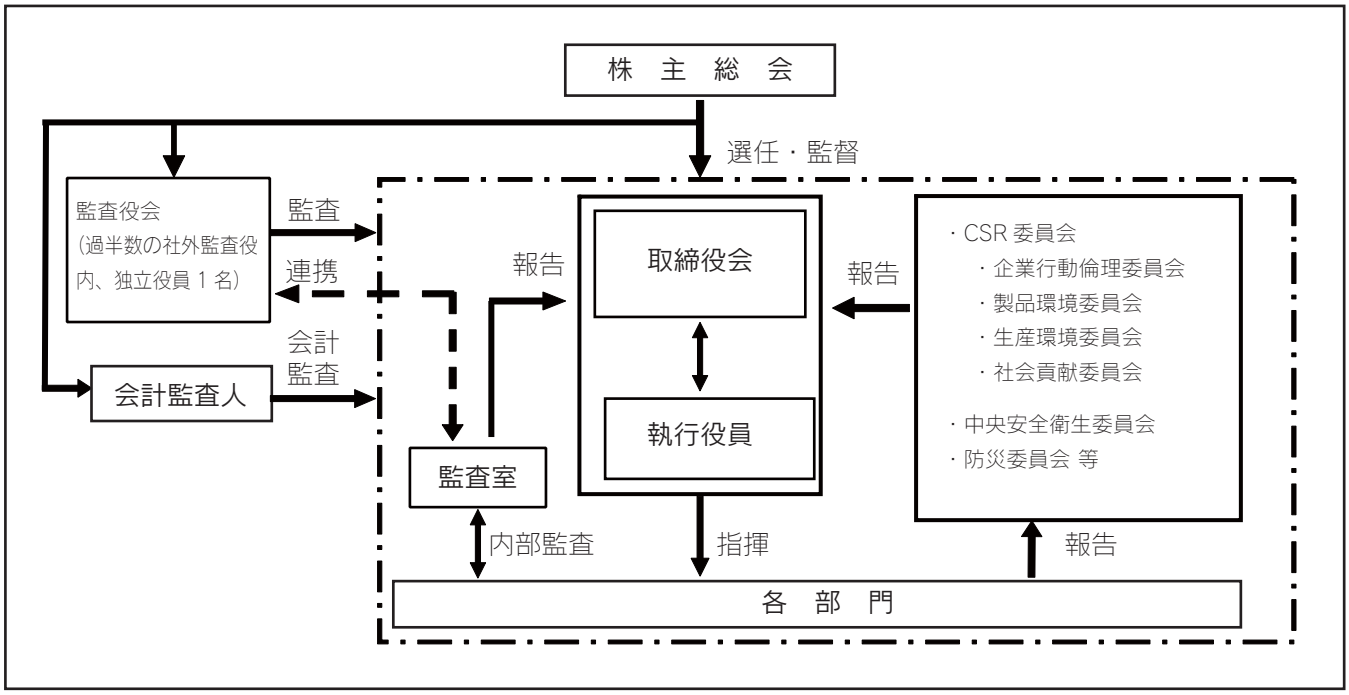
当社は、オープンでフェアな企業行動を基本理念に掲げ、事業の持続的成長と競争力強化により企業価値を向上させていくとともに、社会から信頼され社会に貢献する企業をめざしております。これらの実現のためにコーポレート・ガバナンスの充実・強化が重要であると考え、健全な企業風土の醸成、業務執行の適正を確保するしくみの継続的な改善、それらを実践する人材育成に努めております。

経営の透明性を高める独立役員を設定

事業戦略展開の迅速な意思決定およびオペレーションのスピードアップを期し、執行役員制度を導入しています。また、社会的責任を果たしつつ経営の透明性を高めるため、社内に各種委員会を設置し、経営や企業行動のあり方について審議・モニタリングを実施しています。

経営監視のしくみとして監査役制度を採用しており、2010 年 6 月には監査役の内、1 名を独立役員として設置し、経営の透明性を高めています。

コーポレートガバナンス体系図



コンプライアンス

コンプライアンスの徹底と意識の向上

CSR 委員会の下部組織として「企業行動倫理委員会」を設置し、トヨタ車体グループの企業行動全般に関する統括をしています。法令遵守のしくみ充実や健全な企業風土の構築に向けた活動について審議・モニタリングを実施しています。

「私たちの大切にするもの」の改訂と浸透・定着活動

人の意識改革をめざし、仕事上の考え方や行動、日常業務の場での意識を律する心構えを示した「私たちの大切にするもの」(Basic MAP) を改訂しました。
仕事を通じた育成（自己成長）の実践につながるように、より分りやすい内容に見直すとともに、自らの行動のセルフチェックに活用できるものへ充実し、全社員へ携帯できる小冊子を配付し展開しました。

過去の事例を踏まえながら「私たちの大切にするもの」の必要性について話す網岡社長 (2010/12 月)

また、経営トップが実体験を通じて「私たちが大切にするもの」の精神を伝えるため全部次長を対象に「トップ講話」も開催しています。
職場マネジメントの責任者として職場に浸透させ継承していくことの重要性を理解する重要な場として今後も継続開催していきます。

click
「私たちの大切にするもの」
(2010.12 月改訂発行)

体験談をまじえながら「私たちの大切にするもの」の必要性について話す水嶋会長（2011/5 月）

企業倫理相談窓口の設置

労働問題、コンプライアンスの相談や疑問で上司や同僚に相談しにくい案件について、E メール・電話・手紙で直接受け付ける相談窓口「ホント・コム・ネット」や、弁護士による社外相談窓口「企業倫理ホットライン」を設置し、適切な対応ができる体制を整えています。

リスク管理

基本的な考え方

多様化するリスクを最小化すべく、内部統制の一環としてリスク管理の充実強化に取り組んでいます。経営に影響があるリスクを評価・特定し、未然防止・初動対応の整備を進めています。

下請法 勉強会に約 180 名が参加

5 月、志田至朗弁護士を講師に迎え、各部部長や下請法責任者、関係会社の役員など約 180 名を対象に、下請法の要点や注意事項、陥りやすい事例などを中心に、法令に関する今年度の社内勉強会を開催しました。

下請法勉強会の様子

事故や災害等のリスク発生に備え 危機管理広報セミナーを実施

9 月、全役員と子会社社長と代表部長など約 100 名を対象に危機管理広報セミナーを開催しました。
不測の事態に備えた危機管理における初動対応などのポイントについて講義を開催しました。

社外講師による危機管理広報セミナーの様子

全社従業員 14,000 人を対象に 夜間総合防災訓練を実施

2009 年より本社及び 3 工場の一斉実施とした防災訓練を、より実践に近いものとするため、11 月夕刻の日暮れ時に、部品輸送等が稼働している中で実施しました。

この際、帰宅困難者への飲食料・簡易寝具配布などの対応訓練を追加し、防災マニュアルの改善につなげています。

夜間総合防災訓練の様子

救助シューターを使用した救出訓練

帰宅困難者への対応訓練

東日本大震災に伴う当社の対応について

この度の東日本大震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一刻も早い復興を心から願い、トヨタ車体グループとして、できる限りの支援を行ってまいります。

生産復旧に向けた取り組み

2011 年 3 月 11 日に発生した大震災により、当社を含むオールトヨタで 3 月 14 日から生産停止となりました。そのような中、3 月 17 日から、特に復興に必要な車両補修のための補給部品を第一優先に生産を再開し、また海外現地工場の稼働を保証するため、海外生産向けの部品生産は 3 月 21 日から再開致しました。 その後、被災仕入先からの部品供給状況を踏まえ、4 月 18 日からオールトヨタ全完成車工場で 1 直生産、週 4 日稼働で生産を再開。5 月には週 5 日稼働となり、この 6 月からは本来の 2 直生産体制となり震災前とほぼ同じレベルでの生産を再開することができました。

震災に伴う新車の供給不足により、多くのお客様にお待ち頂いている中、1 台でも多くのトヨタ車を 1 日でも早くお届けすることが当社の使命と考えており、生産活動に全力を挙げております。

震災対策会議による迅速な対応

震災発生後の当社の対応としては、迅速な情報収集と即断即決できる体制を構築するため、3 月 14 日から震災対策会議を立上げ、社長を議長に、開発・生産技術・生産・事務の各部門担当役員・部長が一堂に会して、社員・ご家族の安否確認、オールトヨタの状況確認、仕入先の状況確認、また、復旧にむけた対応策の協議等、毎日全社一丸となって取り組んでまいりました。

工場での取り組み

完成車生産再開までの活動として、工場の体質強化として改善・教育等にも取り組みました。
さらに非稼働時間への対応として、休業日の設定やカレンダーの変更等を行いました。

取引先の被災状況および支援

今回の震災は、当社と直接取り引き頂いている取引先のみならず、その原料や構成部品を供給いただいている取引先まで含め、広範囲な供給網に様々な影響を及ぼしました。
当社は、取引先と力を合わせて、部品や資材を 1 点ずつ全ての供給網をさかのぼって確認した結果、103 品目に供給上問題があることがわかり、社内の関係部署を挙げて代替品への移行を進めました。この 6 月時点では供給上の問題は解消しております。

また、稼動が止まったことに対しての取引先の資金繰りなどの困り事にも、きめ細かく対応し、取引先と一体となった生産復旧を進めました。今後、今回の震災を教訓に、部品や資材の供給網の見直しをはじめとし、安定的な調達体制の整備に引き続き取り組んでまいります。

被災地への支援活動

物的支援

被災地の方々への支援として、義援金 1 億円の寄付と、労使共同で集めた募金により、ハイエースやエスティマの福祉車両など 6 台を岩手・宮城・福島の 3 県に寄贈させていただきました。
また、生活の不便さを少しでも解消できればと思い、11 トン トラック 2 台分の飲料水や食料、簡易トイレなどの生活用品もお届けしました。

福島県での福祉車両寄贈式

支援物資を東北地方へ提供

NPO（被災地での炊出し）に会社バスを提供

ボランティア派遣

当社独自の活動として、福祉車両による送迎サービスがあり、従業員の有志が被災地の避難所に福祉車両を持ち込みスーパーマーケットや温泉への送迎サービスを実施しています。
また、トヨタグループ災害ボランティアネットの一員として、ガレキの撤去や泥のかき出しなどのお手伝いをしております。

従業員ボランティアと送迎サービスを利用する方々

ガレキ撤去の状況

■トピックス

おかげさまで、当社ハイエース 生産累計 500 万台達成（'11/3 月）

・1967 年に初代ハイエースの生産を開始して以降、
世界で人気を博し 500 万台を達成

快適さとゆとりを追求して、当社が カスタマイズしたハイエース（'11/2 月）

click「ハイエース特別架装」

・右側スライドドアを装備し、乗り降りしやすい 5 ドアを実現
・多彩なシートアレンジが可能なロングスライドシート

当社初の北米拠点（APMM※） '11 年秋の生産開始に向け準備再開

・トヨタ自動車 ミシシッピ州新工場の生産開始に合わせ
生産準備を 2010 年 7 月から再開
※APMM Auto Parts Manufacturing Mississippi Inc.

中国の国際福祉展へ初出展（' 10/12 月）

・現地企業である MINTH 社と合同で出展し、アルファードや
ハイエースの福祉車両などを展示。
・多くの来場者でにぎわう当社ブース

当社が携わって世に送り出した 環境に優しいクルマ（' 11/5 月）

「プリウスα」
トヨタ自動車と共同開発（'11/5 月）
トヨタ自動車で生産を行っている新モデル

ダカールラリー 6 連覇（'11/1 月） BDF（バイオディーゼル燃料）での挑戦

・ポディウム（舞台）で、当社の吉原工場の皆さんからの寄せ書き
を掲げ、優勝を喜ぶ水嶋会長、太田チーム代表と TLC メンバー。

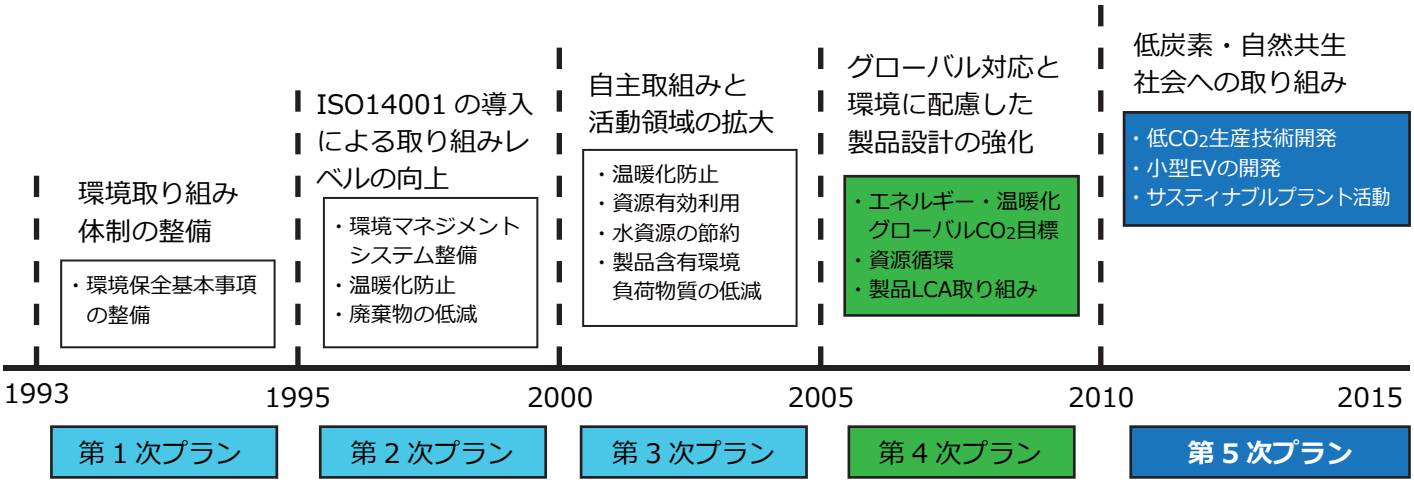
■環境側面

環境取り組みプラン

5 ケ年の中期プランに基づき、連結環境マネジメントを推進

1993 年より環境保全活動を計画的に継続して実施。2010 年度は、第 4 次となる環境取り組みプランをグループをあげて推進しすべての目標を達成しました。
2011 年度、さらなる活動を進化させるため、「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の構築に向けた第 5 次「トヨタ車体環境取り組みプラン（2011 ～ 15 年度の活動）」を策定し、新たな活動に着手しています。

トヨタ車体環境取り組みプランの進化



第 4 次「トヨタ車体環境取り組みプラン」

	エネルギー・温暖化への取り組み(P15)	資源循環への取り組み(P17)	環境負荷物質への取り組み(P18)
開発・設計	・燃費向上に寄与する軽量化設計	・リサイクル設計の一層の推進と展開	・自動車の環境負荷物資の管理、低減
生産・物流	・生産活動における CO_2低減への対策	・資源有効利用の促進	・生産工程での環境負荷物質排出量の低減

環境マネジメント(P19)

- ・環境改善に寄与する新規事業の推進
- ・連結環境マネジメントの強化
- ・取引先と連携した活動の推進
- ・環境教育の充実
- ・トヨタとの連携によるEco-VASへの参画
- ・環境情報開示と双方向コミュニケーション

click「トヨタ車体環境基本方針」
click「環境取り組み体制」
click「第 4 次環境取り組みプラン目標達成状況」
click「第 5 次環境取り組みプラン」

エネルギー・温暖化への取り組み（低炭素社会の構築）

グローバルに中長期省エネルギー・温暖化対策の展開

エネルギー・温暖化問題は人類や生態系への影響が懸念される重要な環境課題と位置付け、エネルギー消費抑制やエネルギー転換などによる CO_2 削減に、クルマの開発・設計、生産・物流のあらゆる段階でグローバルに取り組んでいます。

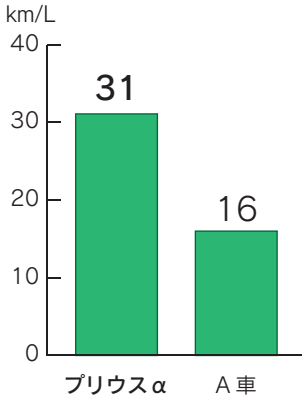
燃費向上に寄与する軽量化設計

「プリウスα」

プリウスのワゴン型モデルで、ゆとりの室内空間を備えた新ハイブリットモデルである。

ハイブリットシステムと、空力性能を追求したボデー形状と軽量化の相乗効果でクラストップの燃費を実現。

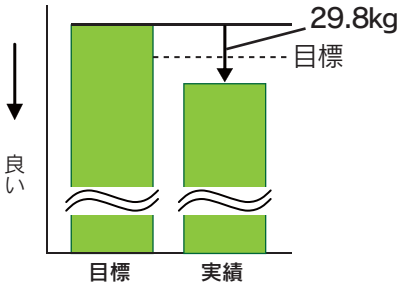
10・15モード燃費
（国土交通省審査値）



※A車：同クラスガソリン車

軽量化のために、骨格部材には新工法ホットプレスによる超高張力鋼板等の採用拡大を実施し、さらに積極的に軽量な新素材を採用しています。

軽量化目標達成率
（トヨタ車体担当分）



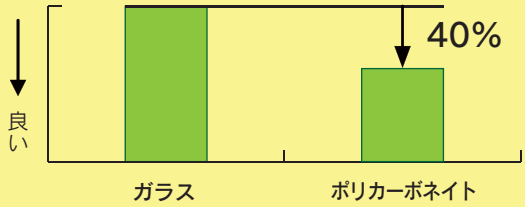
難しい大型樹脂成形を可能にし、40%の軽量化達成

パノラマルーフには断熱性にも優れた軽量のポリカーボネイトを採用。成形が難しいとされている材料を射出圧縮成形やハードコーティングなどの技術により可能とし、従来のガラス製に対し、約40%(約8kg)軽量化を実現。
また、ロールサンシェードとあいまって室内温度上昇を抑制しエアコン負荷を低減します。

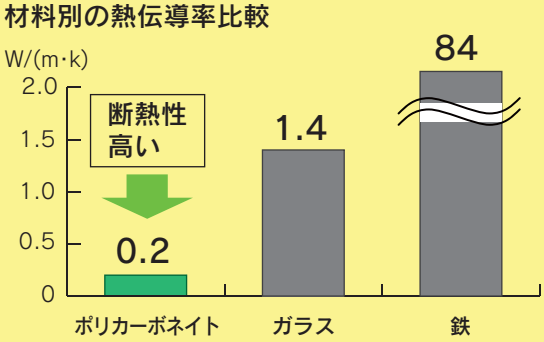
（豊田自動織機と共同開発）

ポリカーボネイトを採用したパノラマルーフ

樹脂パノラマルーフ軽量効果
（対ガラスルーフ）



材料別の熱伝導率比較



click「自動車の燃費向上設計の取り組み」

エネルギー・温暖化への取り組み（低炭素社会の構築）

グローバル事業体での CO_2 低減

トヨタ車体の取り組み

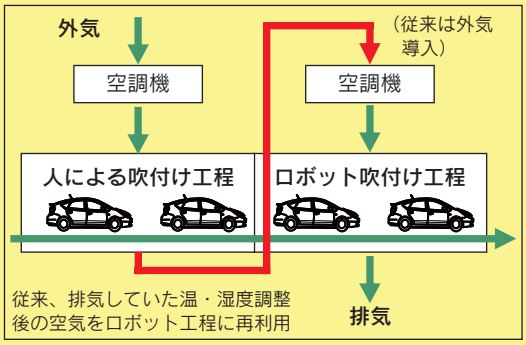
設備更新に合わせた省エネ技術の導入、生産変動に対応したきめ細かな日常管理等、工場毎に削減目標を設定し推進。

- **生産性向上**
  革新的生産技術（コンパクト化、リサイクル等）の導入、低負荷ラインの集約による効率化など
- **省エネ技術導入**
  小型ボイラー・コジェネシステム導入など
- **エネルギー転換**
  油燃料から都市ガス化、
- **再生可能エネルギーの活用**
  太陽光発電システムの活用

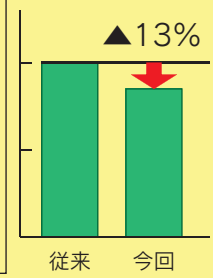
最新技術の導入による CO_2 低減

自動車塗装工程の更新にあたり塗装吹付け工法の高速化による工程長短縮、吹付け室空調のリサイクルシステム導入により大幅な省エネを達成。

リサイクル空調システムフロー



省エネ効果（CO_2 排出量）



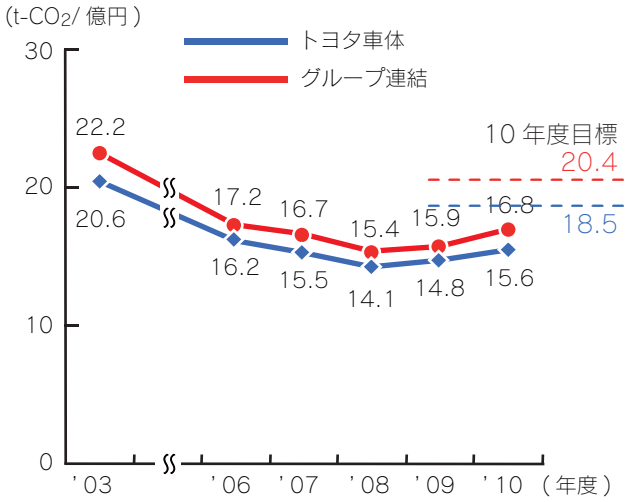
トヨタ車体グループでの取り組み

国内外事業体と連携し、非稼動ロスの低減・ムダの徹底排除等、日常改善事例を共有展開し、省エネ活動を継続的に推進。

トヨタ車体精工㈱（愛知県高浜市）	太陽光発電システムの活用拡大（‘10 年度：75Kw、累計 113Kw）
春翔欣業㈱（台湾）	工場内照明の見直しによる適正照度の確保（照明器具、取付高さ）
スギティクリエーティブス㈱（インドネシア）	樹脂成形サイクルタイムの短縮による電力使用量の削減 工場壁側面の透明プレート化による自然光利用

売上高当り CO_2 排出量

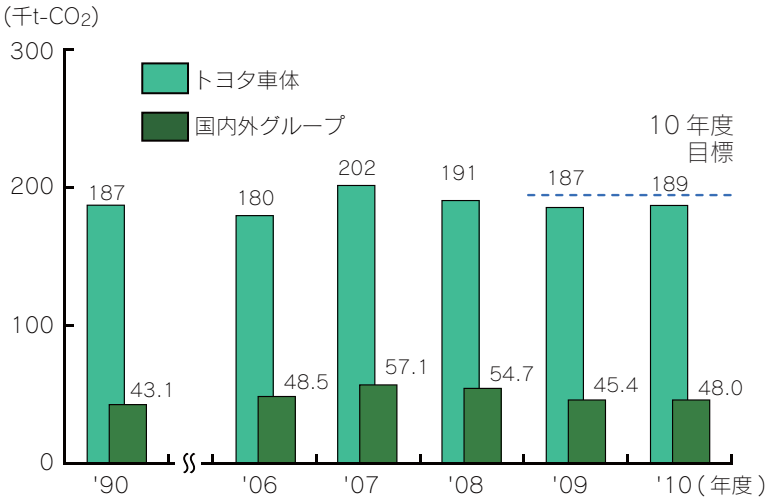
【2010 年度目標】
トヨタ車体：18.5t-CO_2/ 億円以下（03 年度比▲10%）
グループ連結：20.4t-CO_2 / 億円以下（03 年度比▲8%）



※2010 年度は、目標達成ではありますが、夏の猛暑などで 2009 年度比増となりました。

生産工程 CO_2 総排出量

【2010 年度目標】
トヨタ車体：196 千 t-CO_2 以下 (90 年度比▲10% 相当)※



2008 年度より、従来の完成車生産工程での目標 (90 年度比▲10%) から、トヨタ自動車からの工程移管されたシャシー新設工程などを含めた全生産工程での目標（90 年度比 +5%）に変更しました。

click 「生産工程での CO_2 排出量低減の取り組み」

資源循環への取り組み

循環型社会の構築に向けた資源の徹底利用

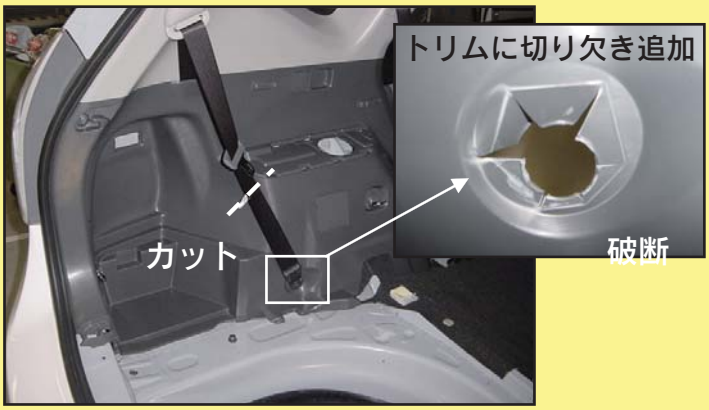
あらゆる資源は有限であるという認識のもと、リサイクルしやすく解体しやすい設計の推進や生産段階での資源有効利用の推進に取り組んでいます。

解体性向上設計

「解体しやすい構造」の研究・開発として、燃料抜取り、エアバッグ処理性、樹脂内装品の取り外し性向上などの活動を継続して推進しています。
プリウスαではボデーサイズアップ、3列シートの増加にもかかわらず、プリウス並みに設定した解体時間目標を達成しました。

3列シートでも解体性を確保する構造の工夫

3列シートのプリウスαでも解体性を確保するため、3列シート横のデッキサイドトリムの解体に必要であったシートベルト締付ボルトを外す作業を、シートベルトのカットのみで、ボルトはそのままでもトリムが簡単に引き剥がすことができる構造を採用しています。

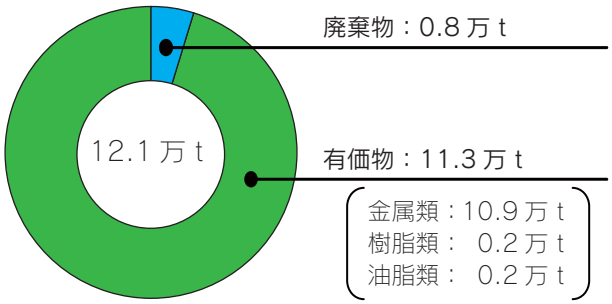


click「自動車のリサイクル設計の取り組み」

生産工程での社外排出物低減

2001年度に、「埋立廃棄物ゼロ」を達成し、現在も継続しています。
さらに循環型社会に向けた資源有効利用を一層推進するため、2006年度からは売却リサイクル物を含む社外排出物の低減を推進しています。

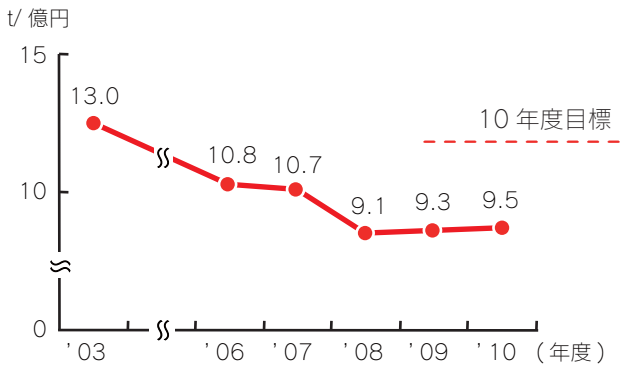
2010年度社外排出物の内訳



click「生産工程での資源有効利用の取り組み」

社外排出物の売上高当り排出量

【2010年度目標】
12.6t/億円以下（03年度比▲3%）



環境負荷物質への取り組み

製品とクルマづくりの両面から環境負荷物質を低減

原材料・部品サプライヤーなど関連会社と連携し、環境負荷物質に対して「製品」「生産」の両面で環境負荷物質の使用を把握するとともにリスクを評価し、より負荷の少ない物質への転換を進めます。

自動車に含有する化学物質の管理・低減

欧州新化学物質規制への対応

欧州 ELV 規制の環境負荷 4 物質の廃止完了。新たな化学物質規制「REACH」*1 への対応をトヨタおよび仕入先と含有量調査を推進しています。

*1：REACH：Registration Evaluation Authorization and Restriction Chemicals
化学物質による人や健康や環境を保護するとともに、化学物質管理の企業責任の明確化を狙いとする規則

車室内 VOC の低減

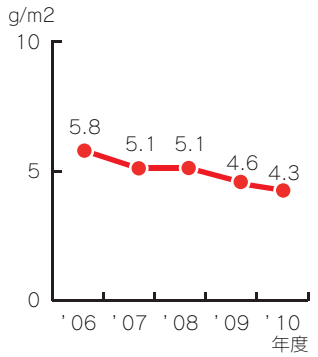
新車の内装部品から揮発する VOC*2(揮発性有機化合物) の素材、加工法、接着剤を見直しトルエン、キシレン、ホルムアルデヒドなどの含有を低減しています。

*2：VOC：Volataile Organic Compounds

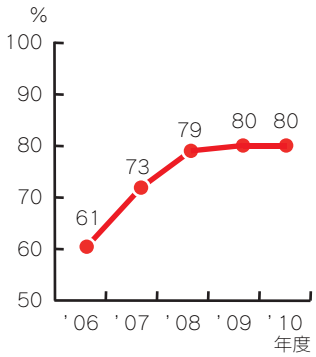
塗装設備改善による生産工程環境負荷物質の排出量低減

自動車の塗装時に使用する塗料、シンナーからは VOC(揮発性有機化合物) や PRTR*3 法対象物質であるトルエン、キシレンなどを排出しており、塗料の水性化切り替え、洗浄シンナーの使用量・廃棄量低減を順次推進しています。

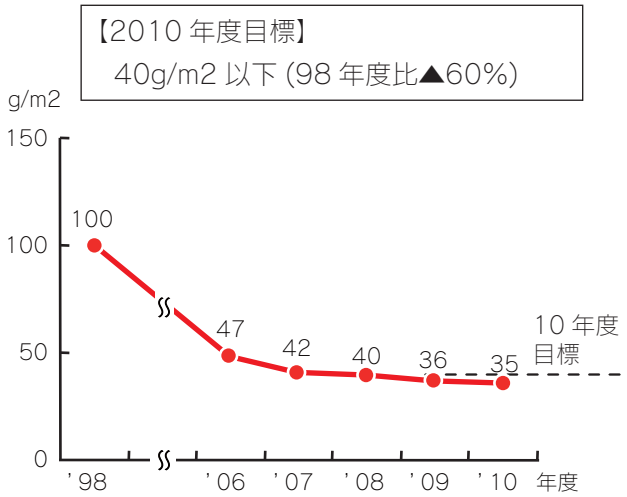
シンナー使用量



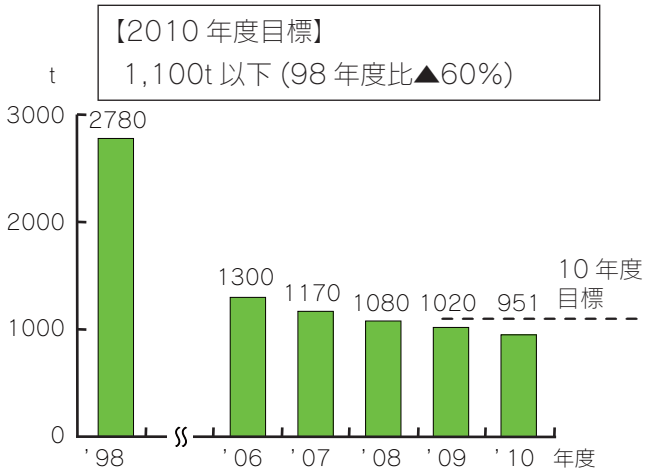
シンナー回収率



ボデー塗装面積当りVOC排出量



PRTR対象物質排出量（大気排出）



富士松工場中塗り塗装設備更新時に織り込み

洗浄シンナー使用量低減
- 自動塗装機吹付けパターン可変工法の導入
- 同色色替え洗浄の廃止

洗浄シンナー廃棄量低減
- 塗装全 18 工程でのシンナー回収装置設置

*3：PRTR：Pollutant Release and Transfer Register
（特定化学物質の排出・移動登録）

環境マネジメント

環境改善に寄与する新規事業の推進

地球温暖化抑制に向け、CO_2 排出の低減をめざした超小型電気自動車 (EV) コムスや燃料電池車の部品開発、再生可能な植物材料の開発など、環境技術分野に重点を置いた技術開発と製品化に取り組んでいます。

EV 開発およびその要素技術開発

超小型 EV 車コムス *1 を柱とし、インホイールモーターなどの EV 要素部品について環境技術開発を進めています。

*1: コムスは、省資源・交通渋滞・駐車スペース問題解決に向けた、「低燃費」「低コスト」のミニマムサイズ近距離移動用 EV です。

小型電気自動車コムス

燃料電池開発

トヨタ自動車の燃料電池車開発と共同し、燃料電池の基幹部品開発を推進しています。

*2: 燃料電池車トヨタ FCHV が、東京～大阪間約 560km を途中で燃料を補充することなく完走しました。
その車には、トヨタ車体開発部品が搭載されています。

燃料電池車 トヨタ FCHV *2

植物材料技術開発

脱石油・省資源で再生可能な植物繊維の特徴を活かした 材料開発を進めています。

*3: 中部国際空港で実証実験を行った、トヨタのパーソナルモビリティ『I-Real』のボデーの一部に、当社の植物材料が採用されています。

パーソナルモビリティ『I-Real』*3

環境マネジメント

環境取り組みの基礎としてマネジメントの推進

環境取り組みを経営の重要課題の一つに位置づけ、開発・設計、生産・物流のすべての段階で環境対策を進めています。具体的にはトヨタはもちろん、国内外グループ、仕入先、地域と連携したマネジメント体制を整備し、国内トップレベルをめざし取り組んでいます。

環境マネジメント進捗状況

項目	進捗状況	関連資料
連結環境マネジメントの強化	・グループ各社への取り組み項目・目標展開と事例の情報交換 ・環境監査によるリスク未然防止	・各事業所の取り組み click
取引先と連携した活動の推進	・部品、原材料に含有する「改訂 PRTR 対象物質」への管理システム変更完了、運用 (2010/4 ～) ・ISO14001 の継続要請	・グリーン調達ガイドラインの要請 click
環境教育の充実	・従業員の環境意識向上および実務での環境改善教育の継続的推進 (環境 e- ラーニング、階層別教育等)	・環境教育、環境啓発の取り組み click
トヨタ Eco-VAS への参画によるライフサイクル環境負荷の低減	・モデルチェンジ、新型車でのトヨタとの連携によるライフサイクル全体での環境負荷の評価実施	・プリウスαのライフサイクル環境負荷評価 click
環境情報開示と双方向コミュニケーションの充実	・トヨタ車体の環境活動をご理解頂くための会社ホームページへの掲載 (随時) および全事業所での「環境懇談会」の定期的開催 (1 回 / 年)	・情報開示と双方向コミュニケーション click

その他の環境関連データ

click「製品への環境織り込みデータ」
click「事業活動における資源投入量と排出量」
click「トヨタ車体でのハイブリッド車生産台数」
click「環境会計」

環境トピックス

地域と共生、自然と調和する工場づくりの推進

人も、地球の空気・水・生態系などの自然の循環の中の一つとして存在しています。
地球環境を持続可能にするため、地域の一員として自然の循環と調和する工場づくりをめざしています。

エコロードの整備をスタート

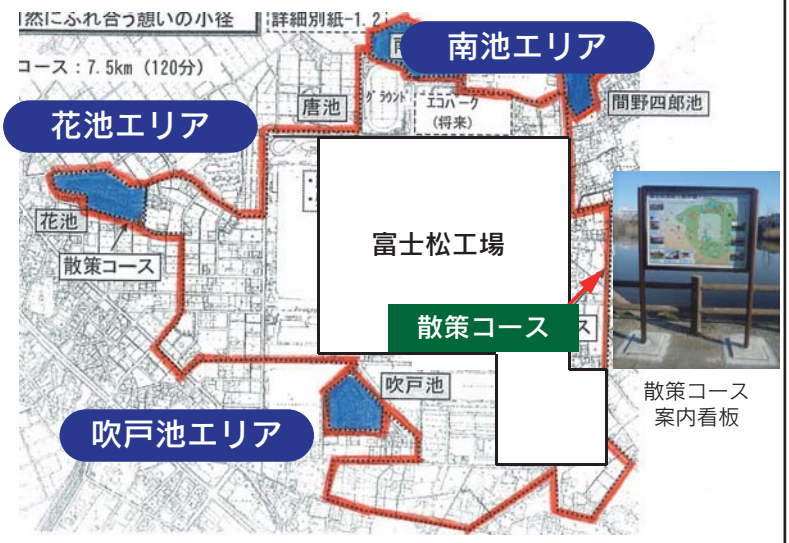
富士松工場周辺の 5 つの池を散策しながら自然環境とのふれあい、学習・歴史を学ぶ「エコロード」の整備計画を地域、行政と一緒に推進しています。

主な計画内容

四季折々の花、緑に溢れた空間づくり
- 工場周辺緑化、休耕田への花植え

くつろげる場所づくり
- 池の周辺へのベンチ設置、壁面絵画

自然観察、地域の歴史・農産物の学習
- 野鳥、生物、歴史看板の設置
- 散策コース案内看板設置　など



散策コース案内看板

エコロード整備イベントを開催

2011 年 3 月、南池のほとりで「エコロード整備イベント」を開催。タマリュウの苗の植栽や工場周辺道路の清掃・美化活動に地域の方々や家族連れの社員など約 120 名の参加がありました。

エコロード整備イベントに参加した皆さん

太陽光発電システムを各工場で活用拡大

2010 年度に導入した太陽光発電の総発電量は 100Kw で、一般家庭の 25 軒分に相当。発電された電力はプリウスプラグインハイブリッドや超小型 EV 車コムスの充電、事務所の照明、空調などに利用しています。

本社事務本館に設置した太陽光パネル

吉原工場に設置した太陽光パネル

お客様とのかかわり

お客様を第一に考え、良い品質の商品をお届けする。

私たちは、お客様に安全で安心して使って頂ける世界No.1品質のクルマづくりを目指しています。
お客様の声を取り入れ、お客様の安全・安心確保に向けた改善・未然防止活動の強化と合せ、
品質の重要性に対する啓蒙活動を進めています。

お客様の安全と安心確保に向けた新製品開発での品質のつくり込み

世界中で使われるお客様の声を開発へ伝える取り組み

世界中のお客様の期待レベルは、従来のお客様のニーズに合わせて開発してきた枠を越え、より高く、多様化してきました。世界トップレベルの品質確保をめざすために、これまで以上にお客様の使われ方を知り、実際の使われ方に立った厳しい試験・評価をすることが必要と考え、取り組んでいます。

海外駐在員による、世界中のお客様情報の早期入手と、設計者による現地現物確認により、お客様の使われ方や各地域の環境条件を把握し、設計・評価へ反映しています。

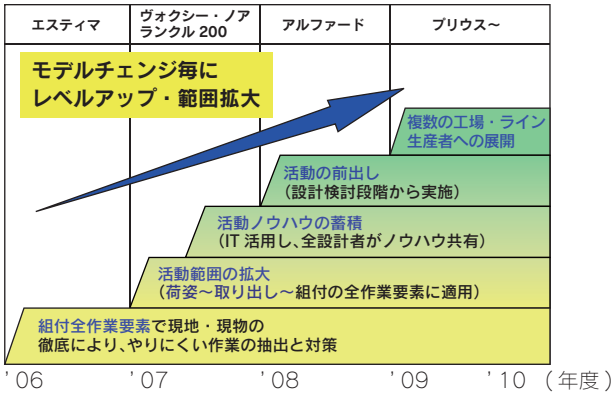
中近東の砂漠での調査状況
（ランドクルーザー 200）

オーストラリアユーザーの使用状況
（ランドクルーザー 70）

つくりやすいクルマづくりによる品質の向上

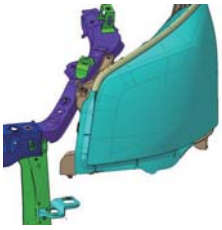
開発段階での「つくりやすいクルマづくり」が量産になってから品質の良い車に仕上がることになります。当社は、設計･生産技術･製造･取引先が一体となった「やりにくい作業の改善活動」を、モデルチェンジ毎に更に進化させながら進めています。

やりにくい作業排除活動の変遷



＜改善事例（アルファード　ヘッドランプ結線作業＞

ヴァーチャル検討･･･『作り易い構造検討』



ヘッドランプに仮置き構造を設定

試作検討･･･『気をつかわない作業検討』

作業者の立ち位置を決める

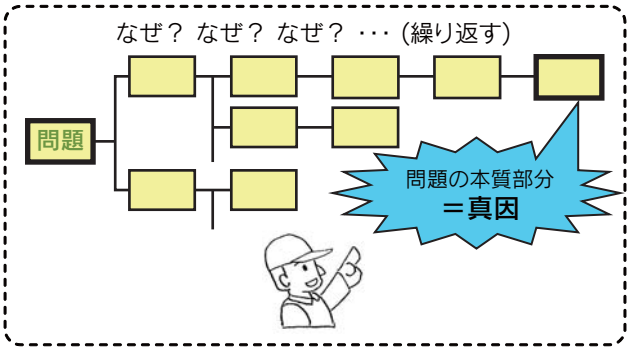
左右どちらのヘッドランプも利き手で作業ができ、誰がやっても同一作業が 可能になった

お客様とのかかわり

量産工程での品質確保への取り組み

品質不良“ゼロ”を目指した取り組み

標準作業による改善を基本とし、品質不良発生時には、なぜなぜ解析による真因追究からの対策を進めています。
又、やりにくい作業等、潜在的にある問題に対しても改善を全ラインで進め、つくりやすいクルマづくりによる品質向上を進めています。



品質の重要性に対する啓蒙活動

階層別の品質教育とともに、品質講演会・品質事例展示会を定期的に開催し、
全社員への「お客様第一」「品質第一」の浸透を継続して進めています。

品質事例展示会にて
事例を見てまわる来場者

お客様の感謝や苦情の声に
真剣に耳をかたむける来場者

お客様情報からの早い改善の推進

お客様の貴重な品質情報は、トヨタ自動車ときめ細かく連携した「EDER*」活動で展開しています。量産車におけるお客様の情報に対して、開発部門に専任者を設置し、より早い確認・改善と、次の新製品での再発防止を推進するようにしました。

*EDER：Early Detection and Early Resolution
EDER とは、いち早く市場品質問題を発見し、直ちに問題を解決し、
速やかに改良・改善の結果をお客様にフィードバックすることです。

リコール等への対応と体制

万が一商品に欠陥が発生した場合は、トヨタ自動車との緊密な連携により「お客様第一」の立場で処置の判断を行ない、必要な対応を敏速に実施していきます。当社独自の電気自動車・生活関連製品等についても、同様の判断で進めています。

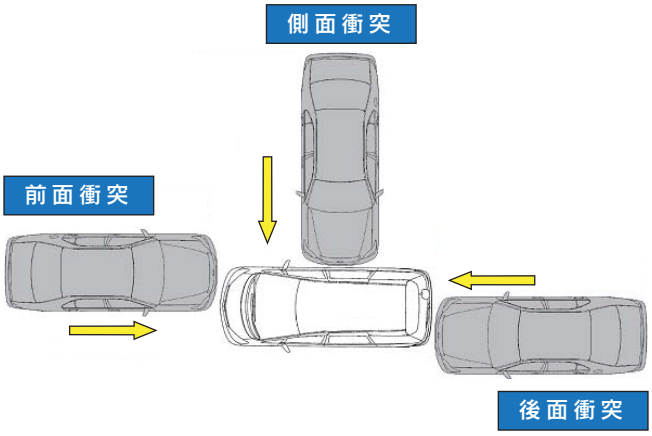
お客様とのかかわり

大きな安心感に包まれた安全性の追求

「安全」「安心」なクルマづくりの考えに基づき、事故の被害を最小化する「衝突安全」、事故を起こす可能性を事前に極力少なくする「予防安全」の視点で開発を推進、各国でクラストップレベルの安全ボディを目指しています。世界各国の法規や、第三者評価も参考にしつつ、実際に市場で発生した事故分析に基づく安全性能に優れたボディの開発評価をしています。

実際の事故分析に基づく安全なボディの開発評価

全方位からの車重・車高の異なるクルマ同士の衝突時の共存を追求するトヨタ独自の全方位コンパティビリティ *1 概念を取り入れて開発をしています。
従来の前面・側面衝突に加え、後方からの衝突にも耐えられるようキャビンを高強度化して乗員の保護性能と生存空間の確保を目指しています。



*1 軽いクルマの衝突安全性能確保と、重いクルマの加害性低減によって双方の安全性を図るという考え方。

歩行者傷害軽減ボディ

万一の対人事故に備えて、歩行者の頭部や脚部への衝撃を緩和するためにバンパー、フード、フェンダー、カウルに衝撃吸収構造を採用しています。

お客様とのかかわり

実際の事故分析に基づく安全なボディの開発評価

当社が開発、生産している新型プリウスは、日本および欧州、豪州、米国それぞれの衝突安全アセスメント評価にて最高位の評価を獲得しました。

生存空間を確保するための高強度キャビン化と乗員保護性能を向上させるための衝撃吸収ボディを両立させ、歩行者保護性能では、頭部及び脚部の衝撃を緩和するためにバンパー、フード、フェンダー、カウルに衝撃吸収構造を採用しています。

当社が開発・生産している車の第三者の評価実績

2006 年	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年

エスティマ

日本 J-NCAP *1
最高ランク
グランプリ獲得

ヴォクシー / ノア
日本 J-NCAP
最高ランク

アルファード / ベルファイア

日本 J-NCAP
最高ランク
グランプリ獲得

プリウス

日本 J-NCAP
最高ランク

欧州 Euro-NCAP *2
2009 年度
最高ランク　5 つ星獲得

豪州 ANCAP *3
2009 年度
最高ランク　5 つ星獲得

米国 IIHS *4
2010・2011 年度
最高ランク
TOP SAFETY PICK 獲得

米国 US-NCAP *5
2011 年度
最高ランク 5 つ星獲得

*1 日本 J-NCAP　自動車事故対策機構
*2 欧州 Euro-NCAP　欧州独立消費者団体
*3 豪州 ANCAP　豪州自動車連盟
*4 米国 IIHS　米国道路安全保険協会
*5 米国 US-NCAP　米国運輸省

お客様とのかかわり

福祉車両でより多くの方に「移動の自由」と「喜び」を提供

福祉車両を通じて「高齢の方や障がいを持つ方に毎日を楽しんでいただけるよう、快適な移動の自由を提供する」ことでより良い社会づくりに貢献し、お客様の豊かな暮らしをサポートできる企業を目指します。2010 年度は、中国の福祉イベントに出展し、海外への福祉車両の普及活動に取り組みました。

福祉車両の普及活動

日本各地で開催される福祉イベントへの出展や福祉施設を訪問し、お客様と直接ふれあい、福祉車両の普及活動に取り組んでいます。
また、お客様の生の声を製品開発に反映しています。

click ’ 10 年度新たに設定した「福祉タクシー タイプⅡ」

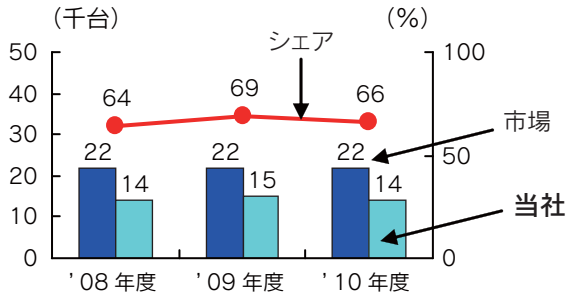
福祉車両の説明を聞くお客様
（国際福祉機器展 2010）

お客様の生の声をヒアリング

国内シェア No.1 の当社福祉製品

当社が生産する福祉製品は、トヨタ自動車をはじめとする自動車メーカー各社にお使いいただいており、お客様の豊かな暮らしをサポートしています。

国内福祉市場における当社シェア（除軽・バス）



データ：（社）日本自動車工業会

海外での福祉車両の普及活動

現在、アメリカ、アジアでの普及活動を展開していますが、もっと多くの方の豊かな暮らしをサポートできるよう、12 月 3 日～ 5 日に中国・北京で開催された 2010 中国国際福祉博覧会に出展し、普及活動に取り組みました。

click「福祉車両　商品ラインナップ」

多くの来場者でにぎわう当社ブース

福祉車両を体験されるお客様

（2010 中国国際福祉博覧会）

取引先とのかかわり

オープンでフェアな取引を推進し、取引先と相互信頼による共存共栄をめざした調達活動の実践

当社の考え方を伝える調達方針の開示

調達方針を開示し、課題や取引先とともに取り組みたい事をお伝えしております。
‘11 年度は、以下の内容を基本方針に掲げ取り組んでおります。

> 取引先とのパートナーシップを大切にし、安全、品質、原価、CSR を活動の軸として、次の 2 項目を重点に推進
>
> ①今後一層厳しさを増す国内市場での競争力のある調達基盤の整備、強化
>
> ②新たな成長に向けた次期モデルチェンジ車の購入品に対する品質、原価の造りこみ

取引先に感謝状を贈呈する網岡社長

また、顕著な取組みのあった取引先には、敬意を表し感謝状を贈呈しております。
2010 年度は、品質及び原価の改善活動に対して延べ 28 社の取引先に感謝状を贈呈しました。

取引先との共存共栄を目指した活動推進

当社はトヨタ自動車の CSR 方針を共有し活動を進めております。この活動内容を CSR ガイドラインとしてまとめ、取引先にも提示し、CSR への取組みをお願いしております。

また、取引先を尊重し、ご意見ご要望を大切にするように努めております。いただいたご意見は真摯に受け止め、社内の行動規範教育などに反映し、調達活動の向上に取り組んでおります。

click 「CSR ガイドライン」

取引先とのかかわり

車体協和会での相互研鑽・交流

当社は相互信頼、相互研鑽をねらいとした、協力会社117社の任意団体である「車体協和会」の活動を支援しております。

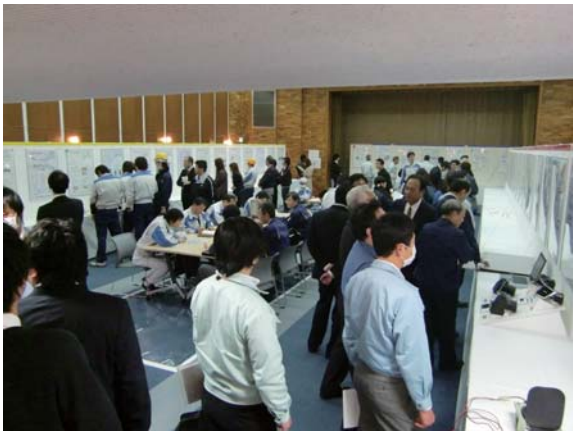
会員会社は、部品、設備の各部会に属し、講演会の開催や異業種まで含めた優秀な企業を訪問するなど見識を深めながら会員相互の研鑽を図っております。
2010 年度は、当社トップによる経営課題講演会や部会の重点テーマである「安全」に対する当社取り組み事例の紹介などを行っております。

当社の「安全」の取組みを紹介

また、部会とは別に品質、原価、経営の各テーマ毎に「研究会」を設けております。各研究グループには当社の関係部署も参画し、当社と会員による双方向コミュニケーションを通じて課題認識の共有化と課題解決に取組みました。

研究会の活動成果の発表会

年度末には、活動の成果報告として「優秀事例展示会」を開催し、会員会社や当社から多くの方が参加して、各社の取り組みを研究し、相互研鑽を図りました。



各社の活動事例を学ぶ優秀事例展示会

地域とのかかわり

地域と一体となった社会貢献を積極的に推進

地域との共生をはかり、「良き企業市民」としての社会的責任を果たすため、2009 年度に発足した各拠点ブロックを軸とした「社会貢献委員会」と、社員有志のボランティア組織「TAB ふれあいクラブ」の活動を通して、地域でのボランティア活動の定着を目指し推進しています。また、拠点各地での森林整備活動など地域と一体となった活動も充実させています。

全社一斉ボランティアの日（’ 10/10 月）
『TAB ふれあいデー 2010
～私たちが働く町をきれいにする！！～』

ボランテイア参加のキッカケとして裾野拡大や、ボランティア意識の高揚につながる全社イベントとして、地域に貢献できるボランティア活動を展開しました。

*1「Make a CHANGE Day」とは 1 年に 1 日、全国各地（海外も可）で一斉にボランティア・市民活動を行う日のことです。

メークアチェンジデイで奨励賞を受賞

地域とのかかわり

社会貢献委員会でのブロック活動

全社を地域との関係で４つのブロックに分け、
地域密着の活動を推進

本社・富士松ブロック

工場周辺の整備

刈谷ブロック

車いす清掃

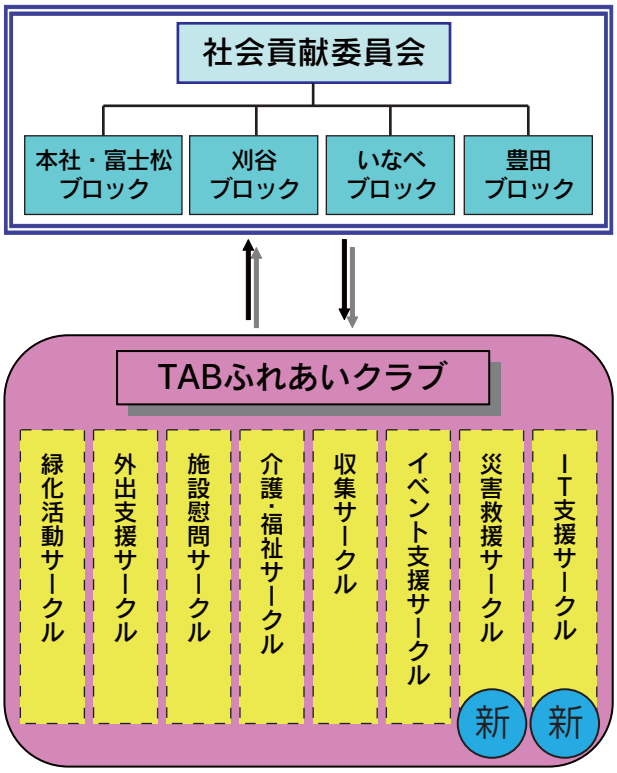
いなべブロック

宇賀川の清掃

豊田ブロック

逢妻男川の植樹

社会貢献推進組織図



TAB ふれあいクラブでのサークル活動

共通の関心を持つ仲間との活動を通じ、交流を図り、活動の活性化を促進。
‘10 年度は、従来の 6 サークルに加えて災害救援の必要性から「災害救援サークル」と、会社業務で身に付けた IT スキルで貢献することを目的に「ＩＴ支援サークル」を新設しました。

災害救援サークル

救急救命訓練

IT支援サークル

パソコン指導

click「緑化活動サークル」
click「外出支援サークル」
click「施設慰問サークル」
click「介護・福祉サークル」
click「収集サークル」
click「イベント支援サークル」
click「災害救援サークル」
click「IT 支援サークル」

地域とのかかわり

拠点各地の森林整備活動

地域からの森林整備要請に応えるべく、拠点近くに整備箇所を選び、拠点社員および地域の方の参加型で森林整備活動を推進しています。

click「愛知県森林整備」

click「三重県森林整備」

click「鹿児島県森林整備」

click「海外森林整備」

鹿児島　間伐場所の視察

トヨタ車体研究所の近隣の16ha の森林の整備を推進。

マングローブ

インドネシア マングローブ植林調印式

スギティークリエイティブスの近隣のジャカルタ沖で100ha のマングローブ林の再生を決定。今後 5 年間で100 万本のマングローブを植林する計画。

地域スポーツ振興、地域懇談会、地域での立哨など

地域とのふれあいを大切にし、地域との共生を目指し活動に取り組んでいます

地域懇談会の開催

地域防犯パトロール

地域での立哨

地域の小学生工場見学

ハンドボール部による地域の子供たちへの技術講習会

地域小中学生を対象としたバレーボール教室を開催

社員とのかかわり

相互啓発型の対話活動で「安全・快適な職場」づくりを推進

毎回違う場面に遭遇する保全職場での実機訓練活動や、職場の特徴に合わせた災害例でヒヤリ体感してもらう活動、当社敷地内で発生する休日外来工事やトラック輸送・荷役に関する災害をゼロにする活動を重点に推進しています。

全社全社員での安全の誓い

一人ひとり全員参加で安全活動を実践し、災害ゼロの実現を誓い合う

全社安全大会（7 月）にて
「安全ルールの遵守」をスローガンに
関連子会社トップを含め全員で唱和

保全職場での災害ゼロ活動

毎回違う場面に遭遇する保全職場は、作業指揮者のもと、安全を確保しながら、作業をしています。作業指揮において、安全な作業手順を考え安全ポイントを的確に指示できる為の現地現物での実機訓練を重要と考え推進しています。

週 1 回、指揮技能を訓練・代表課長が評価

職場毎のヒヤリ体感活動

各職場で想定されるケガを体感機で模擬的にヒヤリと感じることで、危険を危険と感じる感性を高める訓練を重要と考え、推進しています。

挟まれ体感

落下体感

敷地内での休日工事やトラック輸送・荷役における災害ゼロ活動

当社敷地内、当社に関わる輸送における災害発生をゼロにしたいとの考えのもと、外来工事業者や輸送業者と連携した安全管理のレベルアップ活動を推進しています。

トヨタ車体安全衛生連絡会を中心とした長期連休前の工事安全決起集会

輸送安全研究会相互研鑽活動

click「安全衛生基本方針」　click「労働災害発生状況」

社員とのかかわり

社員の心身両面の健康をめざして

社員の健康は個人と会社双方にとって最大の財産と考え、社員の健康が保てるよう各工場に医療専門員を配置させ、健康づくりに取り組んでいます。メンタルヘルス活動、メタボ予防活動、禁煙活動を健康づくり 3 本柱と位置付け、講演会などを通して社員教育を充実させ健康に会社生活が送れるように取り組んでいます。

労働衛生月間 講演会・展示会を開催

一人ひとりの健康意識の喚起をねらいとして 10 月を労働衛生月間と位置付け、メンタルヘルス、メタボ予防、禁煙についての講演会と展示会を工場単位で開催し、社員が自律的に健康づくりを実践していくためのきっかけづくりを推進しています。

労働衛生月間
講演会（10 月）にて
いつでも、どこでも
出来る運動方法を
実践指導

社員の悩みに迅速対応

各診療所へメンタルヘルスの専門家である臨床心理士を常駐させ、社員から寄せられる様々な相談に迅速に対応し、社員の心の健康度アップを推進しています。

労働衛生月間
展示会（10 月）にて
心の健康 相談会を開催

メタボ対策を重点とした生活改善指導

健康保険組合と協業してメタボ対策を重点とした食事や運動等、生活習慣改善指導に取り組んでいます。
一例として、35 歳以上を対象とした集団教育（健康学習会）や生活習慣の要指導対象者への個別指導を実施し、社員の体の健康度アップを推進しています。

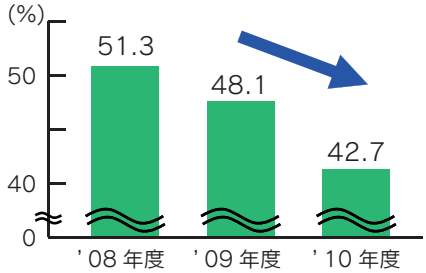
生涯元気な車体マンづくりを目指して、35 才以上の従業員への生活改善指導

喫煙習慣脱却の為の禁煙支援活動

禁煙したくてもニコチン依存症により自力では禁煙の難しい社員に対し、健康保険組合と協業して、禁煙治療を各診療所にて実施しています。

喫煙者の禁煙支援として
禁煙外来を実施
（看護師による説明会）

当社の喫煙率の推移



取り組みの強化により喫煙率は、着実に低減しています。

社員とのかかわり

社員一人ひとりが創造性を発揮し、仕事を通じた自己実現の達成をめざす「人材育成とキャリア支援」

個人、会社、上司の 3 者が一体となって、中長期的な視点から人材育成するしくみ（キャリアサポートプログラム *1）を構築し、自ら考え、自ら行動できる『自律型人材』の育成に継続的に取り組んでいます。新たな成長に向けた人材の育成、専門技術教育の強化を重点に進めており、「モノづくり力の強化」にも継続的に取り組んでいます。

次代を担う人材の育成

車両開発体制の強化や海外事業の拡大等、新たな成長に向けた事業戦略推進の原動力となる人材の育成を精力的に取り組んでいます。

専門基礎技術教育の強化

車両開発・生産技術等の各分野ごとに教育体系を構築し、専門基礎技術を早期に身につけることをねらった教育を実施しています。「車両組み付け作業」の体験が可能な車両開発センターの教育展示場を設置し、実践的な教育に役立てています。

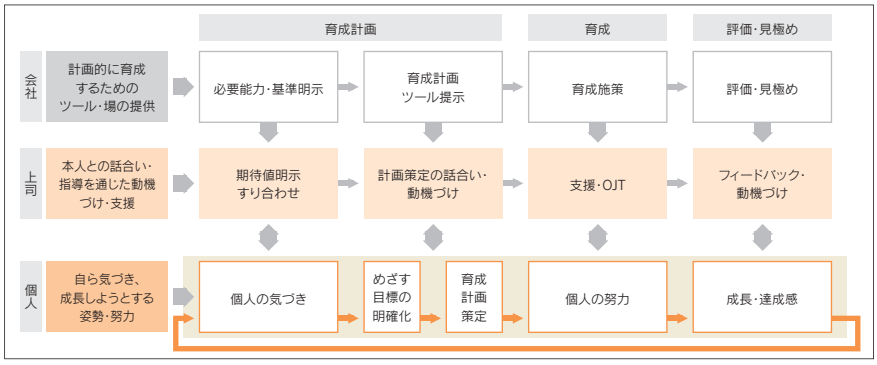
海外（本国）で教えられる人材の育成

海外関連会社から核となる管理・監督者を日本に招き、実践的な教育を受講させ、『本国で教えられる人材』の育成に力を入れています。

将来の発展に向けて

2011 年度より国内・海外の関連会社と連携をはかり、育成を主目的とした出向制度を作り上げ、その活用により、国内・海外関連会社において各人が業務経験を積み、仕事の幅を広げるとともに、組織・会社の枠を超えた人間関係の構築に取り組みます。

***1：キャリアサポートプログラム (CSP) 概要**



車両開発センターでの専門基礎技術講座

海外関連会社研修生の実践教育

社員とのかかわり

モノづくり力の強化に向けて

お客様の安心と信頼を得る品質を作りこむべく、「モノづくり力」の強化のため、入社から中長期に渡る技能修得研修・教育に取り組んでいます。

新人教育

専任トレーナーによる「基本技能・知識教育」を実施。将来、職場の核となる人材の早期育成を目指し、「高技能伝承（技能五輪挑戦）」を実施しています。

2010 年度技能五輪全国大会（自動車板金職種）へ出場

中堅社員教育　〔技能修得研修〕

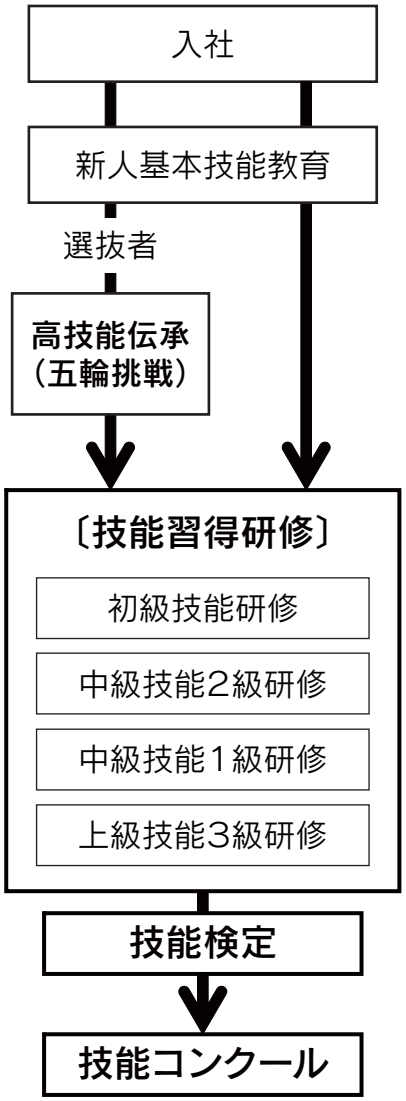
プレス・ボデー・塗装・成形・組立・保全など技能系 8 職種を対象に専任講師により、資格に応じた「技能・知識教育」を実施しています。

特に保全職種は、近年の設備の高度化・複雑化などにスピーディに対応でき、更なる生産性向上を図るために、搬送設備制御やロボットなどの教育を充実し実施しています。

さらに、自らの努力の成果を確認する場として「技能検定」「技能コンクール」を実施し、更なる知識・技能の向上とチャレンジ意欲向上に繋げています。

また、モノづくりに長年にわたり精進し、熟練技能者として『現代の名工』に選出される社員もおり、社員のモチベーション高揚につながっています。

新人教育～中堅教育への流れ



技能修得研修　保全職種　制御回路製作風景

技能コンクール　ロボットティーチング風景

社員とのかかわり

風通しのよい職場づくりを通じて
社員一人ひとりの幸せと会社の発展をめざします

全社的な人事管理、ライン長による職場毎の管理の充実・強化に加えて、労使が協力して「健康で活力ある職場づくり」や「コミュニケーションの活性化」による風土づくりに取り組んでいます。上司と部下といった職場のコミュニケーションの充実は勿論のこと、職層や同好・同窓といった組織・階層の枠を超えた人脈・ネットワークを構築し、インフォーマル組織の活性化する活動を展開しています。

双方向コミュニケーションとしてのＣミーティング実施

2004 年から職場内のコミュニケーション活性化施策のひとつとして、『Ｃミーティング』を導入しました。これは通常の業務進捗等の打合せとは異なり、毎月１時間、人権、安全、コンプライアンス、社会貢献などの各種テーマを設定し、職場内で意見交換、議論を行います。
この機会を通して、職場内で上司と部下、同僚間の垣根を越え、双方向でモノが言い合える、何でも話し合うことができる風土の醸成を進めています。

月１回のＣミーティング風景

仕事を離れたコミュニケーション活動の充実

社員とその家族および近隣地域の方々のふれあいの場として、年１回各事業場ごとにフェスティバルを開催しています。会場内で社員による模擬店や職場対抗のアトラクションを行うなど、親睦を深め共感し合う機会づくりを行なっています。
また、ハンドボール、バレーボール、トライアスロンの各スポーツクラブの試合会場では、チーム、自職場所属の選手を応援することを通して、職場の一体感の醸成をはかっています。

フェスティバルでの職場対抗『大縄跳び』イベント

女子バレーボールの応援風景

社員とのかかわり

社員の多様性を尊重し、能力を発揮でき働きやすい職場づくりを推進

人権意識の深化、障がい者等の人権尊重、子育てサポートなどの充実に継続的に取り組んでいます。

人権意識の深化

「個人の尊重」の実現に向けて、各職場における啓蒙活動の実施および新入社員、役職者を対象とした人権教育を実施しています。
また社内人権啓発活動における指導的人材の育成をねらい、外部機関の研修・講座へ積極的に参加するとともに、「愛知人権啓発企業連絡会」に参画し、同和問題をはじめとした人権課題の解決に取り組んでいます。

社内人権教育

職場における人権尊重の取り組み

社内人権教育ではセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、および不快な言葉遣いなど、日常の会社生活における具体的な人権侵害事象を取り上げ、社員の人権感覚の研鑽に努めています。
また、障がい者・健常者相互の理解を促し、障がい者が自立した社会参加ができるように、職場環境や独身寮などの改善に取り組んでいます。

障がい者雇用状況

年度	‘06	‘07	‘08	‘09	‘10
雇用人員（人）	144	147	146	144	150
雇用率（%）	1.95	1.90	1.86	1.81	1.83

子育てサポートの充実

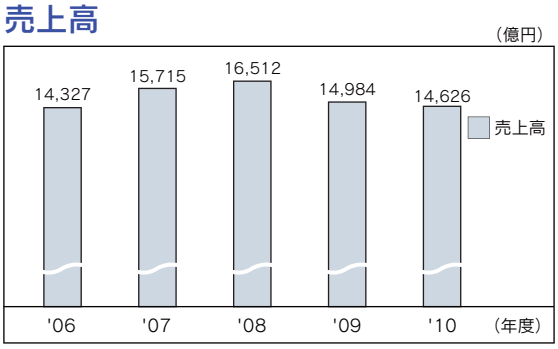
2010 年度は妊娠期における女性社員の働き方として「妊娠期休職制度」を導入しました。
これは妊娠により就業が困難になった女性社員が産前休業に至るまでの期間、休職することができ、母性の保護をはかるものであります。
引き続き妊娠・出産～子育ての各ステージにおいて、子育てとの両立を可能にすべく勤務時間帯や働き方に法定を上回る配慮を行い、ワークライフバランスの実現に取り組んでいきます。

共同託児所
「たっちっちハウス 富士松」

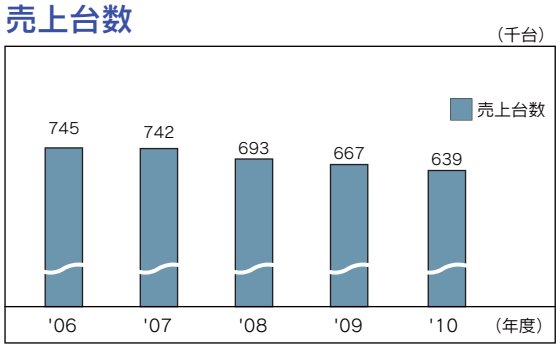
click 「妊娠・出産から子育てにわたるサポート」

■主な経営指標の推移（連結）

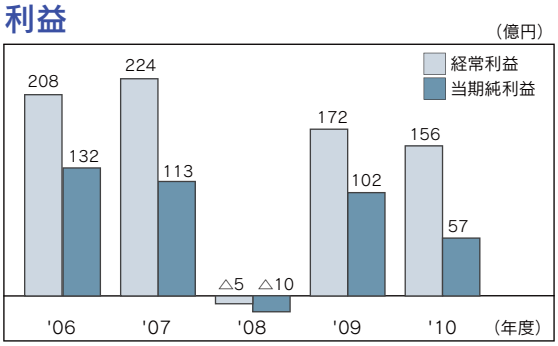
売上高



売上台数

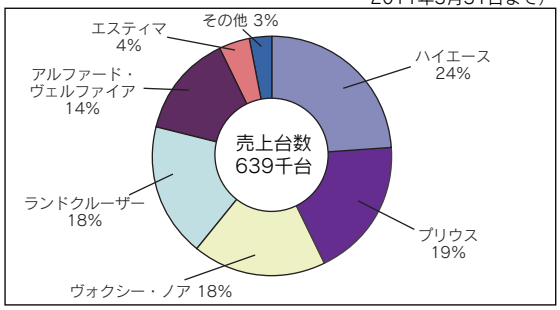


利益

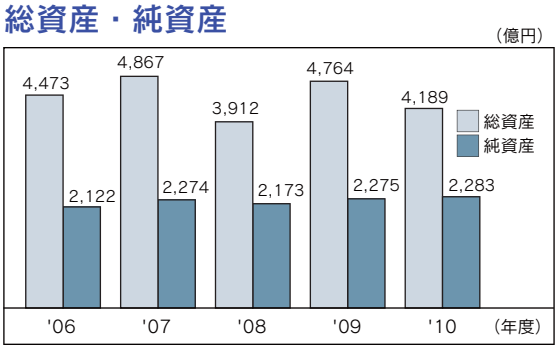


売上台数の内訳

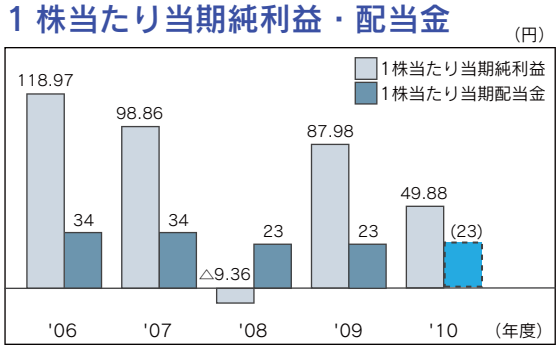
（2010年4月1日から
2011年3月31日まで）



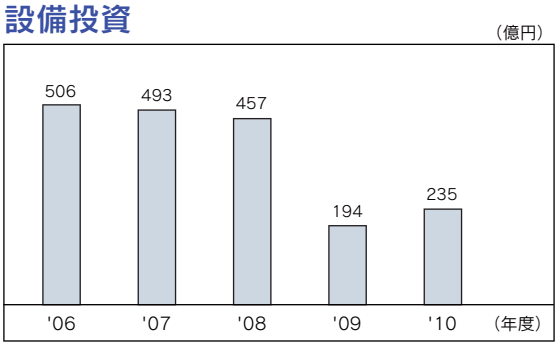
総資産・純資産



1 株当たり当期純利益・配当金



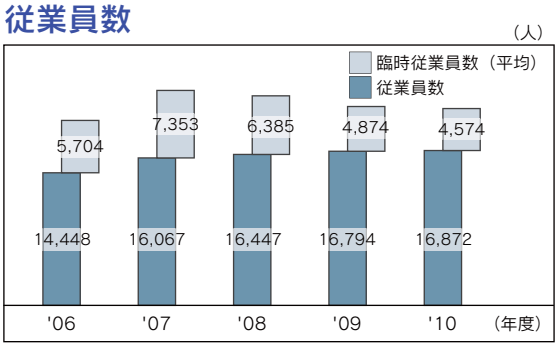
設備投資



単独・連結別の経営指標（2010 年度）

	単独	連結
売上高	13,891 億円	14,626 億円
経常利益	104 億円	156 億円
当期純利益	42 億円	57 億円
1 株当たり当期純利益	36.47 円	49.88 円
総資産	3,947 億円	4,189 億円
純資産	2,131 億円	2,283 億円
総資産当期純利益率 (ROA)	1.00%	1.29%
自己資本当期純利益率 (ROE)	1.99%	2.58%
設備投資額	142 億円	235 億円
従業員数 (2011 年 3 月末)	11,694 人	16,872 人

従業員数



click 「株主・投資家の皆様へ」

皆様のご意見、ご要望を是非お聞かせください。

アンケートはこちらから（CSR レポート　トップページにも記載しています）

click https://www.toyota-body.co.jp/csr/contacts/enquete2011.html

発行

本社　トヨタ車体株式会社
〒448-8666　愛知県刈谷市一里山町金山100番地　TEL.0566-36-2121

お問い合わせ　経営企画部
TEL.0566-36-7510　FAX.0566-36-9113
E-mail　TY.KANKYOU@mail.toyota-body.co.jp

発行　2011年6月（次回発行2012年夏予定）

click http://www.toyota-body.co.jp/

地球温暖化防止の国民運動「チーム・マイナス6%」に参加

トヨタ車体は、地球温暖化防止の国民運動である
「チーム・マイナス6%」に参加。
①冷房温度は28度の設定、
②夏季の軽装の奨励など、CO_2排出量抑制に努めます。

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%